



特定非営利活動法人 日本歯周病学会

2025 年 第 2 号 (9 月)

ニュースレター

〒 170-0003

東京都豊島区駒込 1-43-9 (一財) 口腔保健協会内

TEL : 03-3947-8891 FAX : 03-3947-8341 <https://www.perio.jp/>

発行人 吉成伸夫 編集 広報委員会

【主要コンテンツ】 追悼：齋藤 滋先生・野口俊英先生
AAP-JACP/JSP2026 シアトル大会のご案内

春季学術大会関連のご案内
ICD 協議会加盟

変化の時代における歯周病学のさらなる発展に向けて



副理事長
岩田隆紀

本年度より吉成伸夫理事長の体制がスタートし、副理事長を拝命いたしました岩田隆紀です。理事に就任してから6年が経過しましたが、この間に実に半数近くの1項理事の先生方が退任されることとなり、大きな節目を感じております。一方で、新たに若手の先生方が多く加わってくださったことは、今後の学会の活力につながるものであり、大変心強く思っております。新旧の理事が一体となり、これまで築かれてきた本学会の伝統と信頼を大切にしつつ、次なる飛躍に向けた新たな一歩を踏み出すべく尽力していきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

現在、医療を取り巻く環境は、デジタル化や技術革新の波によってかつてないスピードで変化しています。歯周病学の領域においても、デジタル技術の進展、AI（人工知能）の活用、そして患者負担を軽減する低侵襲手術の普及など、すでに臨床現場に大きな影響を及ぼし始めており、今後ますます日常の診療・研究・教育のあり方を変えていかねばならないことは間違い

ありません。

こうした急速な変化に受け身で対応するのではなく、積極的に先取りしていく姿勢こそが、今後の歯周病学の発展に不可欠であると考えます。デジタルデンティストリーの導入は、診断精度や治療計画の質を高めるだけでなく、患者とのより良いコミュニケーションにも資するものです。また、AIによる画像解析や予後予測などは、個別化医療の実現に向けてきわめて魅力的な研究テーマとなっており、今後の学術的発展の中心的存在になることが期待されます。さらに、超高齢社会の進展に伴い、全身の健康と深く関わる歯周治療のあり方についても、より低侵襲で包括的なアプローチが求められています。

本学会は、歯周病学の科学的探究と臨床応用の両面において、柔軟かつ革新的な姿勢をもち、社会の期待に応える学術団体であり続けたいと考えております。特に今後は、若手研究者・臨床家の皆様との連携をさらに強化し、多様な視点を積極的に取り入れることで、学術水準の向上と社会的責任の両立を目指してまいります。

本ニュースレターが、会員の皆様にとって情報と知見を共有する有意義な場となり、相互の学びと成長につながることを願ってやみません。どうか今後とも、変革を恐れず、ともに未来を切り拓く仲間として、皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

追悼 齋藤 滋 先生



2025年2月16日に、日本歯周病学会名誉会員・神奈川歯科大学名誉教授の齋藤 滋先生が逝去されました。享年94でした。謹んで哀悼の意を表します。

齋藤先生は1957年に東京医科歯科大学歯学部卒業、1961年に同大学歯学研究科を修了され歯学博士を受領、同大学歯学部口腔生化学講座の助手に任官されました。その翌年、米国ロチェスター大学医学部放射線生物学講座に留学されました。

帰国後の1968年、神奈川歯科大学口腔生化学講座に教授として着任されました。1993年に神奈川歯科大学大学院歯学研究科長となられ、1999年同大学を定年退職されました。この間の1989年には厚生省「食を考える懇談会」委員や日本咀嚼学会理事長も務められ、歯科学とりわけ歯周病や咀嚼がもたらすさまざまな病態に関心をもっておられました。1990年には咀嚼と健康国際会議を主催され、多くの著名な欧米の研究者も参加して素晴らしい学会となりました。

また米国滞在中には、米国の学会での演題の決定方法や、一般演題ですらその採択を決める委員会での公正な方法をよく知って、できれば本邦でも用いられるようにしたいと思われていたそうです。そのようなお考えを常々お持ちでしたので、日本歯周病学会の総会時には常に発言され、単に歯周病についての会員間の意見だけでなく他分野の研究者や臨床医の見解を聞くようにして、どのように本学会をさらに発展させるかを説いておられました。しかしながら、会場の多くの人はあまり深く先生の主旨を理解していないように思われました。

私は1965年に東京医科歯科大学歯学部を卒業し、

同じく歯周病学講座の大学院に入りました。当時の教授である今川与曹先生から、歯学部の生化学講座で研究するように指示されました。大学院4年生のとき、スイスのジュネーブ大学に留学のチャンスをいただきました。帰国後2年遅れで大学院修了後、間もなく講師にいただき、今度は文部省在外研究員に指名され、再びジュネーブ大学で研究講師として過ごしました。帰国するや今度はWHOが主催するモスクワでの“歯周病の疫学、病因、その予防法”についての専門委員となり、報告書をまとめる一員となりました。約10名の委員のなかに、New York 大学 Buffalo 校の Genco 教授がおられ、懇意になりお招きを受け、この会議後 Buffalo 校に滞在し研究を続けることができました。そのとき、齋藤先生も Genco 教授と大変親しい間柄であることがわかりました。

齋藤先生は私より8年以上先輩でしたが、同じ大学院生化学講座で過ごしました。当時は荒谷真平先生が主任教授であり、人と議論することと論理的に説明する重要性を説かれ、魅力的な雰囲気醸し出されておりました。齋藤先生ともよく話すようになり、そのご意見を理解できるようになりました。

私が東京医科歯科大学を定年退職後、東京女子医科大学の先端生命医科学研究所の招待教授となったとき、隣の部屋が日本脳神経財団の事務局でした。そこでは日本脳神経財団ニュースとして、『ブレイン』という冊子が年数回発行されていました。その事務局から、歯科と脳機能の関係をわかりやすく書ける先生を推薦してほしいとの依頼がありました。そこで最も勧められる先生として、齋藤先生の名を挙げました。齋藤先生も喜んでこの大役を引き受けてくださり、2021年の『ブレイン』142号にその記事が掲載され、脳外科の先生方からもわかりやすいとお褒めの言葉をいただきました。その内容は、歯は食物を噛むものであるが、一口ごとに脳と情報交換する精密なセンサーであり、重要な脳活動の一つと考えられる、というものでした。その科学的根拠は、動物実験で脳内での c-fos 遺伝子が食前より食後に明確に海馬にみられ、さらに大脳皮質の広い領域で認められることであり、歯周病などで抜歯されるとその脳活の低下を招くことになる、と述べられました。

先生はご趣味としてゴルフがお好きで、私どもが開

催するペリオ会にもよく参加され、80歳を過ぎても本当にゆっくりした美しいスイングで、常にエイジシューターかそれに近いスコアで回られ、参加者から驚嘆されていました。

先生の考えられていた学会のあり方も、最近ではだ

んだん広がっているように見えます。先生のご冥福を心からお祈りいたします。合掌

東京科学大学名誉教授
名誉会員 石川 烈

追悼 野口俊英 先生



2025年3月4日に、日本歯周病学会名誉会員・愛知学院大学名誉教授の野口俊英先生が81歳で逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

野口先生は1969年3月に東京医科歯科大学卒業、同大学大学院歯学研究科（保存学第二講座：歯周病学）を1973年3月に修了されました。

大学院時代に目黒の予防衛生研究所（予研）にてデキストラナーゼの研究をされていたそうで、予研時代の話事をあるごとにされていたことが思い出されます。荒谷真平先生、西澤俊樹先生、今井 奨先生の話をよくされていました。研究の合間にテニスをして余暇も楽しんだことなど、医局から同じく予研で研究をされた先生方とよく話されていました。よほど楽しかったのだろうと思います。

大学院修了後、スイスの Muleman 博士の教室に在外研究員として2年間留学されました。そこでは毎週、1週間の研究成果を報告する報告会があり、それがかなり大変であったけれどもいい経験をしたと話されていました。とはいえ、大学時代にドイツ語研究会に所属していてドイツ語の素養があったのが役立ったと言われていました。2年間の留学中、車でヨーロッパ各地を巡り歩き多くの写真を撮られて、ときどき見せてい

ただきました。永世中立国のスイスは、山の中腹の見えにくいところに防衛拠点があり、それなりの自衛軍がいて、平和を維持するにはそれなりの準備の裏付けがあり、日本は平和ボケしているとよく言われていたことが印象的でした。

留学から帰国後、講師となり、私（福田）は1977年にD4の臨床実習のライターをしていただきました。保存学第二講座では、それまでの研究を続ける傍ら、ご親戚に難治疾患研究所の篠田 壽先生（後に東北大学教授）がいらして、無機リン酸化合物であるEHDPや、ヒドロキシプロピルセルロースを使った薬剤の局所投与法などの基礎研究を共同で研究・指導されました。

その後、助教授を経て、1986年4月愛知学院大学歯学部第3保存学講座（歯周病学）に、中静 正先生の後任教授として就任されました。愛知学院大学では、2004年から病院長、2007年から歯学部長など歯学部の主要な役職を務められました。病院長を務められたときには、病院収入を上げるべく病院職員に対して意識改革を促進するための工夫をいろいろと取り入れるなど、積極的に職務に励んでおられました。その功績から、2007年より歯学部長に選任されました。歯学部長の在任中、「戦略的基盤事業」など大型のプロジェクトリーダーを務められ、歯学部の研究拠点づくりに手腕を発揮されました。愛知学院大学の未来口腔医療研究センターの充実に寄与され、その結果、歯学部の講座間の研究協力が活発になりました。

一方、歯周病学会では、皆様ご存じのように2005年、日本歯科大学の鴨井久一教授の後任として理事長となりました。理事長時代には、九州大学の前田勝正教授、新潟大学の吉江弘正教授、東北大学の島内英俊教授、日本大学の伊藤公一教授などの協力を得て、歯周病用語集、歯周病分類システム、歯周病の診断と治療の指針などを完成されました。また、それまで長野県



愛知学院歯周科のゴルフコンペの1コマ（前列左から3人目）



で開業されていた谷口威夫先生が長く支援しておられた歯科衛生士士関連委員会を発展させて、歯周病学会認定歯科衛生士制度として整備され、歯周病診療における歯科衛生士の役割を明確にするとともに制度として歯周病学会での位置づけを明確化されました。対外的には、医道審議会委員、日本学術会議連携会員なども務められました。

野口先生の岳父にあたる農業気象学の研究をされていた中原孫吉千葉大名誉教授はその昔受勲されたと伺っていますが、野口先生もそのご経歴が評価され、2022年11月3日、瑞宝中授章を叙勲されました。

以上、野口先生との思い出をもたれている先生方も

多いと思います。僭越ながら、ここに代表して追悼文を書かせていただきました。

先生は、建築家であったお父様の仕事の関係で、満州で幼少期を過ごされ、いわゆる引揚げを経験されており、日本が今後戦争に引き込まれないかと心配されていました。天国から歯周病学会のさらなる発展、平和な日本が続くことを見守っていらっしゃると思います。安らかに！

愛知学院大学名誉教授
名誉会員 福田光男

第69回春季日本歯周病学会学術大会開催のご案内

令和8(2026)年5月22日(金)、23日(土)の2日間にわたり、第69回春季日本歯周病学会学術大会を浜松市のアクティシティ浜松において開催いたします。本大会でも人数制限なく希望者は全員現地参加できるように進めており、またオンデマンドでのWebプログラムも用意し、ハイブリッド開催で準備をしております。

本大会ではメインテーマを「歯周病を攻略する」とし、基礎的な観点から最近の臨床まで、幅広く多岐にわたったプログラムを組ませていただきました。

大会1日目(22日)は、特別講演Ⅰとし岐阜大学大学院医学研究科の手塚健一先生に、基礎的な観点から「細胞外エクソソームの機能等(仮題)」の講演をしていただきます。また、特別講演ⅡではUCLA 歯周病学

主任教授の Flavia Pirih 先生に「インプラント周囲炎(仮題)」に関する講演をお願いしております。シンポジウムⅠでは、「歯周病原細菌と歯周病のかかわり(仮題)」とし、微生物・細菌と生体防御機構の観点から猪俣 恵先生(明海大学)、長谷川義明先生(愛知学院大学)、多田浩之先生(東北大学)にご登壇していただくことになっております。また、AAP 会長の Ana Giglio 先生には特別講演をお願いしており、AAP での最近の取り組みなどもお話しいただけるものと楽しみにしております。

2日目(23日)は、医療安全講習として福岡歯科大学客員教授の樋口勝規先生より「歯科医療に関わる感染管理」の講演が予定されております。特別講演Ⅲでは、朝日大学客員教授の瀧野裕行先生より、学会のメ

インテーマである「歯周病を攻略する」と題し、歯周治療の長期症例や最新の歯周治療に関しての臨床応用について熱く語っていただく予定です。シンポジウムⅡにおいては、最新の再生療法に関して、新進気鋭の今村健太郎先生（東京歯科大学）、尾野 誠先生（京都市）、安藤省吾先生（名古屋市）の3名の先生方に登壇いただき、それぞれの再生療法の臨床に関する考え方をご講演ご討論いただきます。

歯科衛生士シンポジウムでは、「ライフコースアプローチを踏まえた歯科衛生士の臨床を考えよう」と題し、衛生士の観点から歯周治療に対してのお考えを3名の先生方に講演していただく予定です。本学術大会では、一般口演中は可能なかぎりシンポジウムなどの企画を避け、より多くの先生方とのディスカッションをしていただけるように準備いたします。また、その他に歯科衛生士教育講演・各種ポスター発表・認定医専門医教育講演・企業展示・ランチョンセミナー等、さまざまなプログラムを用意しております。

今大会は、静岡県浜松市で開催させていただくことになりました。浜松市は、徳川家康公ゆかりの地であり歴史ある都市となっております。また浜松城は「出世城」とも呼ばれ、パワースポットとしても注目されているようです。グルメも、うなぎ・浜松餃子等、おいしいものがたくさんあります。会場は、新幹線・在来線停車の浜松駅から至近で、交通の便は良いと思います。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

大会長 辰巳順一

1. 会 期

令和8（2026）年5月22日（金）、23日（土）

2. 会 場

アクトシティ浜松

〒430-7790 静岡県浜松市中央区板屋町 111-1
（各種委員会・学術大会）

TEL：053-451-1111

オークラアクトシティホテル浜松

〒430-7733 静岡県浜松市中央区板屋町 111-2
（理事会・理事懇親会）

TEL：053-459-0111

両施設とも浜松駅東口（メイワン改札口）より直結
徒歩3分

3. テーマ

歯周病を攻略する

4. 事前参加登録期間および参加登録費

令和7（2025）年12月1日（月）正午より

令和8（2026）年3月27日（金）正午まで

	事前参加登録	当日
正会員	5,000円	8,000円
準会員（上記以外）	3,000円	6,000円
非会員（歯科医師・医師）	10,000円	13,000円
非会員（上記以外）	5,000円	8,000円
学生（歯学部・専門学校生）	1,000円	1,000円

5. 演題申込および抄録登録期間

令和7（2025）年11月13日（木）正午より

令和7（2025）年12月25日（木）正午まで

登録期間終了日は、アクセス集中によるエントリー遅延、不具合が起りやすいので、早めに登録をおすましてください（登録期間以降は、受付・オンライン修正・削除はできません）。発表方法に関する詳細は、学術大会ホームページで案内予定です。演題登録時には登録サイトにて、留意事項を必ずご確認のうえ、ご応募くださいますようお願い申し上げます。

第69回春季日本歯周病学会学術大会 事務局

朝日大学歯学部口腔感染医療学講座歯周病学分野

準備委員長：北後光信

〒501-0296 岐阜県瑞穂市穂積 1851

TEL：058-329-1452

第69回春季日本歯周病学会学術大会 運営事務局

（株）日本旅行 西日本 MICE 営業部内

〒530-0001 大阪市北区梅田 1-1-3

大阪駅前第3ビル3階

TEL：06-6440-1420 FAX：06-5440-1414

E-mail：jsps69@nta.co.jp

第 69 回春季日本歯周病学会学術大会臨床ポスター (認定医・歯周病専門医、若手ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター) 発表申込のご案内

学術大会における臨床ポスター（認定医・歯周病専門医、若手ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター）発表の演題募集は、一般演題とは別になります。受付は学術大会ホームページからのみになりますのでご注意ください。以下に概要を記します。

演題申し込みおよび抄録作成方法などの詳細は学術大会 Web サイト上で公開予定です。認定医・歯周病専門医、若手、ならびに歯科衛生士症例のポスターカテゴリーごとに必ずご確認ください。

1. 演題発表資格

いずれのカテゴリーとも、筆頭発表者が歯周病専門医ならびに学会認定資格（認定医・指導医あるいは認定歯科衛生士）を有している必要はありませんが、筆頭発表者と発表における責任者は本学会会員に限ります。また、本学術大会における筆頭発表は 1 名 1 演題までといたします。詳細は学術大会ホームページをご参照ください。

2. 演題申込および抄録登録期間

令和 7（2025）年 11 月 13 日（木）正午より

令和 7（2025）年 12 月 25 日（木）正午まで

【注意事項】

A) 臨床ポスター、歯科衛生士ポスターは症例発表の場で、臨床研究の発表は認めておりません。臨床研究に該当する場合、一般演題での登録をお願いします。

B) 「認定医・歯周病専門医申請における医薬品・機器の使用に関する考え方（薬機使用の考え方）」

https://www.perio.jp/member/certification/recognition/file/new/info_220602.pdf

「学術大会・臨床ポスター応募症例チェックリスト（学術大会ポスターチェックリスト）」

https://www.perio.jp/member/award/file/special/poster_checklist.pdf

上記を遵守いただきますようお願いいたします。



薬機使用の
考え方



ポスター
チェックリスト

C) 登録期間終了日はアクセス集中によるエントリー遅延・不具合が起こりやすいので、お早めに登録をおすすめください。

D) 演題申込時には学術大会ホームページ記載の留意事項を必ずご確認くださいませようご案内申し上げます。上記事項を逸脱する行為および演題内容については、発表をお断りすることがあります。

3. 臨床ポスター発表の特典

臨床ポスター発表を行うと、筆頭発表者に対して資格申請・更新に必要な所定の研修単位が付与されます（歯周病専門医の申請時、および認定医と歯周病専門医の更新時の生涯研修単位における業績発表単位は 10 単位、認定歯科衛生士の申請時・更新時の生涯研修単位における業績発表単位は 10 単位）。なお、感謝状は学術大会終了後郵送いたします。

4. 臨床・症例ポスターの発表様式

パネルサイズは高さ 210 cm×幅 90 cm です。表示形式および表記様式、ポスター討論についての留意事項を学術大会ホームページにてご案内していますのでご確認ください。**演題番号の個所や顔写真の掲示場所、「同意や承認」（手術の患者同意あり、発表の患者同意あり、未承認薬等使用状況の表示、利益相反状態の開示（コメント））の記載場所、ポスター討論の時間等細かく規定されていますので必ずご確認ください。**

印刷前に PDF 形式で発表データを提出いただき、認定 3 委員会・大会校により、事前チェックを行います。なお、演題登録後に抄録の変更や討論時の発表者交代は認められません。問題が生じましたら運営事務局にご連絡ください。

5. ポスター賞について

認定医・歯周病専門医優秀臨床ポスター賞、ならびに若手臨床ポスター賞は選考対象となることを希望された発表が、ベストデンタルハイジニスト賞は歯科衛生士ポスター発表として演題登録いただいた発表のうち症例発表が選考対象となります（ただし、留意事項を遵守されていない場合は対象外）。受賞発表および表彰は次同学術大会（第 69 回秋季日本歯周病学会学術大会）にて行います。その際、受賞ポスターは再掲しますので、発表ポスターの保管（データ版・紙版とも）にご協力願います。

歯周病専門医審査委員会委員長 山本松男
認定医委員会委員長 藤田 剛
歯科衛生士関連委員会委員長 三谷章雄

歯周病専門医・指導医・認定医および認定歯科衛生士制度についてのお知らせ

日本歯周病学会では、本年度の認定医・歯周病専門医・指導医および認定歯科衛生士の申請と更新、ならびに歯周病専門医研修施設および学会認定研修会の申請を受け付けます。各資格についてのタイムスケジュールは以下のとおりです。

1. 歯周病専門医・指導医申請（第74回専門医・指導医認定審査）および各資格の更新

令和7（2025）年11月10日（月）：受付開始

令和7（2025）年11月28日（金）：締切（消印有効）

令和8（2026）年1月16日（金）：申請および更新に関する書類審査会開催

令和8（2026）年3月7日（土）：歯周病専門医申請者のみ 歯周病専門医本試験（ケースプレゼンテーション、口頭試問、ならびに筆記試験）開催

※第68回専門医認定審査より筆記試験が導入されました。書類審査合格通知時に詳細をご案内します。

令和8（2026）年5月21日（木）：各資格申請・更新合格者を理事会で承認

令和8（2026）年5月22日（金）：第69回春季学術大会（浜松）時に合格発表

令和8（2026）年7月頃：歯周病専門医審査合格証・指導医認定証発行*

※日本歯科専門医機構発行の歯周病専門医認定証は令和8（2026）年度末に行われる運用審査承認後に発行予定

2. 認定医申請（第35回認定医認定審査）および更新

令和7（2025）年12月1日（月）：受付開始

令和7（2025）年12月19日（金）：締切（消印有効）

令和8（2026）年2月5日（木）：申請および更新に関する書類審査会開催

今回の申請より、認定医親規申請書類の提出方法が一部変更となります。詳細につきましては、学会ホームページにてご確認ください。

令和8（2026）年5月21日（木）：申請者のみ 筆記試験会場：アクトシティ浜松

申請・更新合格者を理事会で承認

令和8（2026）年5月22日（金）：第69回春季学術大会（浜松）時に合格発表

令和8（2026）年7月頃：認定医認定証発行

⇒平成30（2018）年1月1日より、新規認定医申請の際に、本学会が行う倫理に関する講演の受講（1回以上）が義務付けられました。

第34回認定医筆記試験より試験範囲が変更となります。「一般演題（臨床）チェックリスト」「臨床ポスターチェックリスト」「認定医・歯周病専門医申請における医薬品・機器の使用に関する考え方」（日本歯周病学会会誌特別号参照）

3. 認定歯科衛生士申請（第42回認定歯科衛生士認定審査）および更新

令和7（2025）年10月20日（月）：受付開始

令和7（2025）年11月7日（金）：締切（消印有効）

令和7（2025）年12月7日（日）：申請および更新に関する書類審査会開催

令和8（2026）年2月22日（日）：（申請者のみ）ケースプレゼンテーション

令和8（2026）年5月21日（木）：申請・更新合格者を理事会で承認

令和8（2026）年5月22日（金）：第69回春季学術大会（浜松）時に合格発表

令和8（2026）年7月頃：認定歯科衛生士認定証発行・認定歯科衛生士襟章送付

以上の各資格の申請・更新手続き、申請書類や規則等については、学会ホームページ（<https://www.perio.jp>）をご確認ください。ホームページに記載された方法に準拠しない申請・更新手続きは無効となります。

なお、規則・細則は改定されることがありますので、ホームページにおける申請受付前1カ月以内の最新の記載内容を確認してください。

歯周病専門医研修施設申請・更新のお知らせ

歯周病専門医の研修施設を認定する制度です。申請・更新受付とも期間は令和7（2025）年11月10日（月）～令和7（2025）年11月28日（金）（消印有効）です。申請・更新手続きについては、学会ホームページ（<https://www.perio.jp>）に記載してあります。

認定医、歯周病専門医・指導医更新に関わる研修単位を取得できる歯周病専門医審査委員会が認めた歯周病に関する学会および研修会申請についてのお知らせ

歯周病学に関する専門的研修に寄与する学会、指導

医等主催による任意の研修会について、研修単位取得対象研修会として認定する制度です。申請期間は令和7（2025）年11月10日（月）～令和7（2025）年11月28日（金）（消印有効）です。手続きの方法等を学会

ホームページ（<https://www.perio.jp>）に記載しておりますので、これに従い手続きを行ってください。令和8（2026）年2月末頃までに歯周病専門医審査委員会の審査による認定の諾否を通知いたします。

学会プロモーション活動について

国民に対する歯周病啓発活動について、進捗状況をお伝えします。

1. 国民向け新ホームページ「ペリオぶっく」

令和6（2024）年11月28日に公開しました。歯周病専門医と認定歯科衛生士の検索機能は引き続き構成中です。リンクフリーですので、勤務先ウェブサイトに掲載を歓迎します。

<https://periobook.perio.jp/>



ペリオぶっく

歯科医師会・歯科衛生士会における歯科に関する普及活動で「にゃんかむちゅ〜」キャラクターを使用したい、イベント会場で動画を放映したい場合は、学会事務局までご相談願います。



にゃんちゃん
CV: 花江夏樹



チュー太
CV: 花江夏樹



かば山かば彦
CV: 花江夏樹

2. 国民向け歯周病関連のPR動画の作成

歯周病非関心者向け動画「にゃんかむちゅ〜 Season 3」をいい歯の日（令和6（2024）年11月8日）に公開しました。今年度は既存の動画コンテンツを生かした普及活動を実施予定です。また、自治体や地域の



にゃんかむちゅ〜
公式YouTube
チャンネル

日本歯科専門医機構報告

現時点までの歯周病専門医に関する対応について、ご報告いたします。流動的な状況もございますので、今後、取り扱い等の変更が発生する可能性があることをあらかじめご了承ください。これからも、タイムリーに情報を発信いたしますので、会員情報の登録内容のご確認、ならびに電子メールご登録をお願いいたします。

口腔保健協会会員システム「OHASYS」

<https://ohasys.net/login>

※会員番号の確認はお手元の

会員カードをご参照ください。



1. 日本歯科専門医機構「共通研修」について

令和6（2024）年度より、歯周病専門医新規申請・更新の手続きに際し、『①医療倫理、②患者・医療者関係

の構築、③医療安全、④院内感染対策、⑤医療関連法規・医療経済』の受講歴が各1単位以上かつ、5項目を含む共通研修単位を毎年度2単位、計10単位取得の義務付けが本施行となったところですが、令和11（2029）年度新規申請・更新者より、『①医療倫理、②患者・医療者関係の構築、⑤医療関連法規・医療経済の各1単位（合計3単位）については日本歯科専門医機構が主催する共通研修を受講すること』が追加となりました。

ご自身の共通研修単位の確認方法ですが、本学会以外が主催する共通研修については学会事務局での把握が困難です。生涯研修記録簿にて適時記録のうえ、ご確認ください。

本学会では会員負担を考慮し、春季・秋季学術大会内で「共通研修」に認定された講演を実施し、本学会

学術大会への参加（現地・オンライン問わず）のみでカリキュラムを満たせるよう講演プログラムを編成しております。今後は、以下を開催予定です。

- ・第 68 回秋季学術大会：⑤医療関連法規・医療経済（倫理委員会企画講演），③医療安全（大会校企画講演）。
- 第 69 回春季学術大会：④院内感染対策（医療安全委員会企画講演）

歯周病専門医資格の取得および更新をご予定の先生におかれましては、必要とされる「共通研修」の単位を確実に取得するために、各学術大会へ参加（Web 参加も可能）のうえ、共通研修を受講してください。

2. 歯周病専門医の認定証発行について

日本歯科専門医機構認定歯周病専門医として制度が変更されたことに伴い、本学会が発行していた歯周病専門医の認定証は、取り止めとなりました。それに代わる証明として、歯周病専門医審査（1 次審査）に合格された方には「歯周病専門医審査合格証」を登録料入金後発送します。また、「歯周病専門医記念の楯（希望者のみ）」についても「歯周病専門医審査合格証の楯（希望者のみ）」に変更となっております。

なお、日本歯科専門医機構発行「歯周病専門医認定証」は、同機構による認定審査（2 次審査）終了後、発行予定です。

3. 令和 6（2024）年度以降における機構認証に関わる受益者負担（経費負担）について

令和 6（2024）年度以降の歯周病専門医更新料/登録料に日本歯科専門医機構審査料として 11,000 円を上乗せし、受益者負担となっております。

4. 日本歯周病学会認定「歯周病専門医」記載終了時期について

日本歯科専門医機構の基本領域に対応する 5 つの学会認定専門医について、当面の間に限り広告を認めるとしていた経過措置を令和 10（2028）年度末で終了する旨、令和 6（2024）年 3 月 29 日付で厚生労働省より発出されました。現行の歯周病専門医における広告標榜は令和 11（2029）年度以降、【日本歯科専門医機構認定歯周病専門医】のみとなり、【日本歯周病学会認定歯周病専門医】という記載は不可となりますのでご注意ください。

5. その他

今後、日本歯科専門医機構の方針により、歯周病専門医、ならびに同研修施設の新規申請・更新時に関する基準などが変更になる可能性があります。その対応に関してはなるべくご負担にならない方法を本学会内で引き続き検討中ですが、急な変更となることもございますので、学会からの連絡（電子メール、ニュースレターの内容等）をその都度ご確認くださいようお願いいたします。

第 112 回アメリカ歯周病学会共催日本臨床歯周病学会・日本歯周病学会 2026 大会のご案内

第 112 回アメリカ歯周病学会共催日本臨床歯周病学会・日本歯周病学会 2026 大会（AAP-JACP/JSP2026 シアトル大会）が、下記のとおり開催されることとなりました。日本からも多くの先生方が演者として採択されております。皆様のご参加をお願いいたします。

会期：令和 8（2026）年 10 月 29 日（木）～11 月 1 日（日）
会場：Seattle, WA, USA

標記大会の参加登録は、アメリカ歯周病学会ホームページから行っていただく予定です。詳しい登録方法は日本歯周病学会ホームページ（<https://www.perio.jp/member/>）会員向けページに申込用バナーを設置します）およびニュースレターでご案内いたします。

なお、今回も JACP/JSP ポスターセッションが行われます。演題募集は 12 月から開始予定です。優秀な発表には表彰（JACP/JSP ポスター賞）も行われます。応募資格等につきましては、年内に学会ホームページに掲載されますのでご確認のうえ奮ってご応募ください。

募集カテゴリー（予定）：

General/Basic Research, General/Clinical Research, Case Report, Dental Hygiene

理事長 吉成伸夫
国際交流委員会委員長 山田 聡

ICD 協議会加盟と ICD 取得について

令和 7 (2025) 年 4 月 1 日付で、本学会は ICD (Infection Control Doctor) 協議会加盟学会となりました。ICD 協議会では感染制御の専門的知識を有する専門家：インфекションコントロールドクター (infection control doctor, 以下、ICD) を養成しており、本学会においても今後、学術大会時に ICD 講習会を開催し、ICD の養成を行っていく予定です。

早速、今年度より ICD 認定申請を下記のとおり行います。詳細は学会ホームページをご覧ください。

申請受付期間：令和 7 (2025) 年 4 月 1 日～10 月 31 日
(必着)

提出方法：学会事務局まで郵送

ICD 応募資格：詳細については、ICD 制度協議会のホームページ (申請手順) をご確認ください。

1. 感染対策実務歴が 5 点以上あり、所属施設長の証明があること。
2. ICD 協議会の主催する講習会または厚生労働省の委託による院内感染対策講習会への参加実績が 3 回 (45 点) 以上あること (講習会参加実績に有効期限はありません)。
3. 感染制御に関する論文または学会・研究会発表があること。(筆頭 1 編または共同 2 編)
4. 所属学会からの推薦があること。

令和 7 (2025) 年度 秋季総会について

秋季総会は以下の日時に開催予定です。参加人数の把握のため、出欠を事前に回答願います。

令和 7 (2025) 年 10 月 2 日 (木) 頃より、回答フォームでの受付開始予定です。詳細は、口腔保健協会会員管理システム「OHASYS」による電子メール配信でのご案内いたします。

日時：令和 7 (2025) 年 10 月 17 日 (金)

10:20～11:50

場所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

議事事項：庶務報告、会計報告、
各種委員会報告、その他

総会終了後、各賞表彰式実施



回答フォーム

各賞および奨学金助成募集のご案内

各賞および助成の募集を下記のとおり行います。いずれも学会ホームページにて詳細をご確認ください。

1. 日本歯周病学会奨励賞 (Hu-Friedy Award) (令和 7 (2025) 年度)

令和 6 (2024) 年度実績：採択数 4/応募数 6

奨励賞は、歯周病学の発展に寄与する学術論文を発表した若手研究者を表彰するために、本学会名誉会員 見明 清 東京歯科大学名誉教授の寄付金を基金として、平成 7 (1995) 年に設けられました。ヒューフレディ株式会社のスポンサーシップを得ており、本賞(奨



励賞楯)のほかに副賞 Hu-Friedy Award (賞金 3 万円、クリスタルトロフィーならびに同社製品) が贈られます。4 名以内が選考されますので、学会ホームページの応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。

<https://www.perio.jp/member/award/encouragement.shtml>

申請期間：令和 7 (2025) 年

11 月 4 日 (火)～12 月 12 日 (金)

申請書類提出用ユーザー名：JSP-2025

書類提出用パスワード：JSP2025Shorei

2. 日本歯周病学会教育賞（取組み部門：Ishiyaku Award, コンテンツ部門：YDM Award）（令和7（2025）年度）

令和6（2024）年度実績：取組み部門 採択数1/応募数1
コンテンツ部門 採択数1/応募数1

教育賞は、歯周病学教育の発展に寄与した取組み、ならびにコンテンツを表彰することを目的としております。表彰対象は歯周病学の教育の発展に寄与する取組み、ならびにコンテンツです。応募資格は取組み、ならびにコンテンツ代表者が本学会の会員であること、過去に本賞を受けたことがないことが条件です。なお、本賞は副賞として医歯薬出版株式会社、ならびにYDM株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞（表彰状）のほかに、副賞 Ishiyaku Award, ならびに YDM Award（各賞金5万円）が贈られます。学会ホームページの応募要項をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、郵送で受け付けます。



<https://www.perio.jp/member/award/education.shtml>

申請期間：令和7（2025）年

11月4日（火）～12月12日（金）

※消印有効

3. 奨学金助成（令和7（2025）年度募集 令和8（2026）年度実施）

令和6（2024）年度実績：採択数2/応募数2

日本歯周病学会は、次世代の歯周病学研究の質の向上を支援するために、若手研究者に対する奨学金助成を行います。本奨学金は、本学会が平成23（2011）年度から基金として準備し、平成25（2013）年度に設置されたものです。助成者は、申請者から2名以内（1件の上限は100万円）が選考されます。応募の条件が定められていますので、学会ホームページの規程をご一読のうえ、若手研究者の皆様には奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。



<https://www.perio.jp/member/award/scholarship.shtml>

申請期間：令和7（2025）年

11月4日（火）～12月12日（金）

申請書類提出用ユーザー名：JSP-2025

書類提出用パスワード：JSP2025Ikusei

4. Young Investigator Award（SUNSTAR Award）（令和8（2026）年度）

令和6（2024）年度実績：採択数2/応募数3

本賞は、学術大会発表において優れた研究を発表した若手研究者を表彰することを目的としております。表彰対象は、本学会当該年度の日本歯周病学会 Young Investigator Award に応募し、学術大会に発表された口頭発表とします。本賞は副賞としてサンスター株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞（Young Investigator Award 楯）のほかに、副賞 SUNSTAR Award（賞金5万円と記念品）が贈られます。応募の条件が規定されていますので、学会ホームページの応募資格（申請期間開始日までに掲載予定）をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。



<https://www.perio.jp/member/award/young.shtml>

申請期間：令和8（2026）年

2月2日（月）～3月6日（金）

申請書類提出用ユーザー名：JSP-2026

書類提出用パスワード：JSP2025YIA

5. 日本歯周病学会地域活動賞（令和8（2026）年度）

令和6（2024）年度実績：採択数0/応募数1

本賞は、歯周病の予防・治療を通して、地域住民の健康増進に寄与した優れた活動業績を上げられた団体を表彰することを目的としております。表彰対象は地域社会の歯科保健、特に歯周病治療の向上に優れた功績のあった団体です。応募の条件が定められていますので、学会ホームページの規程をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、郵送で受け付けます。



<https://www.perio.jp/member/award/regional.shtml>

申請期間：令和8（2026）年

2月2日（月）～5月31日（日）

※消印有効

6. 日本歯周病学会歯周組織再生医学優秀発表賞（KAKEN Award）（令和8（2026）年度春季学術大会発表）

令和6（2024）年度実績：採択数2/応募数3（第67回秋季学術大会発表）

本賞は、日本歯周病学会各学術大会においてポスター発表された歯周組織再生に関する優れた研究（臨

床・基礎は問わない) および筆頭演者を表彰することを目的とし、令和5(2023)年度に創設されました。本賞は副賞として科研製薬株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞(歯周組織再生医学優秀発表賞楯)のほかに、副賞 KAKEN Award(賞金5万円)が贈られます。学会ホームページの応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。

<https://www.perio.jp/member/award/presentation.shtml>

申請期間: 令和7(2025)年
11月4日(火)~12月26日(金)

申請書類提出用ユーザー名: JSP-2025
書類提出用パスワード: JSP2025Saisei

7. 日本歯周病学会歯周組織再生医学優秀論文賞
(KAKEN Award)(令和7(2025)年度)
令和6(2024)年度実績: 採択数2/応募数4



本賞は、本賞募集前年1月~12月に掲載、あるいはアクセプトされた歯周組織再生に関する論文(臨床・基礎は問わず、幹細胞研究も対象) および著者を表彰することを目的とし、令和5(2023)年度に創設されました。本賞は副賞として科研製薬株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞(歯周組織再生医学優秀論文賞楯)のほかに、副賞 KAKEN Award(賞金10万円)が贈られます。学会ホームページの応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。

<https://www.perio.jp/member/award/paper.shtml>

申請期間: 令和8(2026)年
2月2日(月)~3月6日(金)

申請書類提出用ユーザー名: JSP-2025
書類提出用パスワード: JSP2025Ronbun



歯科衛生士教育講演のご案内

今年度の開催予定は以下のとおりです。詳細はホームページで通知いたします。

〔秋田県〕

日時: 令和7(2025)年11月16日(日)
10:00~15:00
会場: あきた芸術劇場ミルハス

〔島根県〕

日時: 令和7(2025)年11月24日(月・祝)
10:00~15:00
会場: いきいきプラザ島根

臨床研修会のご案内

今年度は三重県、ならびに北海道での開催を予定しております。詳細はホームページで通知いたします。

• 第5回中部地区（三重）臨床研修会

日 時：令和7（2025）年10月5日（日）

13：00～17：00

会 場：三重県歯科医師会館

テーマ：歯周治療を行おう！（ベーシック）

• 第5回北海道地区（帯広）臨床研修会

日 時：令和7（2025）年11月16日（日）

10：00～16：00

会 場：十勝歯科医師会館

テーマ：最適な歯周治療を全ての人に ― 今日から
認定制度にチャレンジー

次期理事（2・3・4項理事）選出についてのご案内

特定非営利活動法人日本歯周病学会定款細則により、次期理事の選出についてご案内申し上げます。

（特定非営利活動法人日本歯周病学会定款細則より抜粋）

第7条 理事の選出はこの細則に基づいて理事会が行う。

1 理事は以下の基準のいずれかを満たす者とする。

1) 歯科大学および大学歯学部において歯周病学を担当する教授

2) 3年以上の評議員経験者で、歯周病学関連の研究教育に従事する教授

3) 5年以上の評議員経験者で歯周病学関連の診療教育に従事する以下の基準のいずれかを満たす学外臨床医（主たる勤務が大学・大学病院の会員は除く）

①日本歯周病学会指導医の資格を有している者

②歯周病学領域の卒後研修などにおいて、指導的立場から歯科医師の診療および教育などに直接従事していて、業績がありその経験年数が10年以上ある者

4) 5年以上の評議員経験者で、歯周病学関連の診療、研究または教育に従事する歯科衛生士

5) 理事長の依頼により選出された以下の者

①日本歯科衛生士会から推薦を得た歯科衛生士

②専門医制度関連学会に関する細則第5条で承認された団体から推薦を得た同団体会員

2 理事の定員は以下のように定める。

前項1), 2), 3), 4), 5) に該当する理事はそれぞれ29大学各1名、15名以内、10名以内、2名以内、各1名とする。

3 本細則第7条1項2), 3), ならびに4) の理事の選出は、別に定める内規に基づいて行う。

4 理事は任期中に担当講座を辞任した場合には、辞任時に理事の任期を解くものとする。なお、第7条1項2), 3), 4) の理事にあっては満70歳を定年とし、理事の任期中に70歳になった場合、その年度で任期満了とする。

上記のうち、第7条1項の2), 3) および4) に該当する理事につきましては、各任期の最終年度に、内規に則し次期理事の選任を行います。2) に該当する理事15名、3) に該当する理事10名、および4) に該当する理事2名を公募いたします（ただし1大学からの推薦枠は2名まで）。なお、次期理事の任期は令和9（2027）年4月1日より令和11（2029）年3月31日になっております。

なお、理事選出は、理事選任に関する内規に則って行われますので、応募は現理事による自薦または他薦いずれでも結構です。また提出書類は、履歴・業績・推薦書等ですが、書式につきましては必ず学会事務局（口腔保健協会）にご確認、ご請求くださいますようお願い申し上げます。なお、業績は理事選挙の際に投票参考資料として開示されますことをあらかじめご承知

願います。

応募締切は学会事務局宛に令和7(2025)年11月30日(日)消印有効「レターパックプラス(書留)またはそれに準ずる宅配便を利用のこと」とさせていただきます。

選出は、選挙管理委員会での資格審査後、以下のスケジュールで現理事の郵送による投票、理事会による承認を経て次期理事が決定する予定です。

【次期理事選挙のスケジュール】

令和7(2025)年11月30日(日)

公募締切(消印有効)

選挙管理委員会による資格審査

令和8(2026)年1月下旬

理事候補者の公示ならびに理事投票フォームの配信

選挙権者は理事(理事選任に関する内規1-II-6-(4))

選挙公示日は2月2日(月)

2月10日(火)投票フォーム送信締切(同日23:59:59事務局必着)

選挙管理委員会による開票

5月21日(木)理事会への選挙結果報告ならびに承認
5月22日(金)総会への選挙結果報告ならびに承認

備考:次期理事長の選出につきましては、理事長候補有資格者のうち立候補いただいた理事のなかから、理事会(令和8(2026)年5月21日開催)における選挙をもって選出いたします。結果につきましては、総会(令和8(2026)年5月22日開催)以降にお知らせいたします。

理事選挙管理委員長 長野孝俊

理事選挙管理副委員長 竹立匡秀

理事選挙管理委員 田口洋一郎, 辰巳順一,

佐々木大輔, 野中由香莉

応募書類請求ならびに送付先:日本歯周病学会事務局
〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込TSビル4階(一財)口腔保健協会内

TEL:03-3947-8891 FAX:03-3947-8341

e-mail:gakkai16@kokuhoken.or.jp

各賞・助成選考結果

各賞・助成の概要につきましては、学会ホームページに掲載しております。なお対象者および受賞者の所属は、選考・受賞時のものです。

学会賞 (SUNSTAR Award)

中島啓介

(九州歯科大学口腔機能学講座
歯周病学分野・教授)



仲谷 寛

(日本歯科大学附属病院総合
診療科・教授)



野口和行

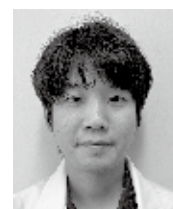
(鹿児島大学大学院医歯学総合
研究科歯周病学分野・教授)



奨励賞 (Hu-Friedy Award)

上田智也

(広島大学大学院医系科学研究科
歯周病態学研究室)
“Nuclear receptor 4A1 (NR4A1) upregulated by n-butylidenephthalide via the mitogen-activated protein kinase (MAPK) pathway ameliorates drug-induced gingival enlargement”



川村翔太郎

(愛知学院大学歯学部歯周病学講座)

“IL-35 may prevent the exacerbation of aspiration pneumonia involving *Porphyromonas gingivalis* by suppressing IL-17 production”



中川佳太

(東京科学大学病院歯周病科)

“Genetic Analysis of impaired Healing Responses after Periodontal Therapy in Type 2 Diabetes : Clinical and in vivo Studies”



山中理映子

(九州歯科大学歯学部歯周病学分野)

“Evaluation of a Novel Immunochromatographic Device for Detecting *Porphyromonas gingivalis* in Patients with Periodontal Disease”



教育賞

取組み部門 (Ishiyaku Award)

嘉藤弘仁

(大阪歯科大学歯周病学講座)
「オンデマンド動画教材を活用した歯周病技能実習の新たな教育アプローチの提案」



コンテンツ部門 (YDM Award)

友田航輔

(千葉・医療法人社団幸陽会 間瀬デンタルクリニック)
「低侵襲な歯周外科手術 (M-MIST) の基本手技」

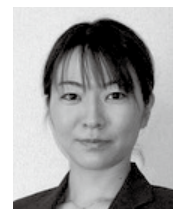


優秀臨床ポスター賞 (Quintessence Award)

最優秀賞ポスター賞

中村 梢

(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野)
「重症先天性好中球減少症を有する小児姉妹における歯周炎症例」



優秀賞ポスター賞

川名部 大

(東京・医療法人社団大明会 川名部歯科医院)
「複数の大白歯の根分岐部病変に対して歯周組織再生療法を行った一症例」



ベストデンタルハイジニスト賞 (TAKARA BELMONT Award)

平野恵実

(日本歯科大学新潟病院)
「SPT 中の口腔内変化から鉄欠乏性貧血の関与が疑われた一症例」



研究者育成ファンド

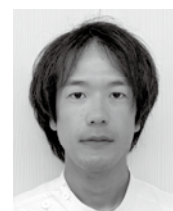
齋藤夏実

(東京科学大学病院歯周病科)



藤森良介

(広島大学大学院医系科学研究科歯周病態学教室)



Young Investigator Award (SUNSTAR Award)

久保田萌可

(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科歯周病態学分野)
「歯周炎症が血糖値の日内変動に及ぼす影響—マウス歯周炎モデルにおける持続自己血糖測定器を用いた解析—」



高井英樹

(日本大学松戸歯学部歯周治療学講座)
「miR-200a は Twist2 を抑制し、歯肉線維芽細胞を骨形成細胞に分化誘導する」



学部学生優秀発表賞 (Nakanishi Award)

佐藤晃平

(九州大学大学院歯学研究院歯周病学分野)
「実験的歯周炎は、メサンギウム細胞の HPGDS 発現亢進により糸球体線維化を促進することで、KK-A^yマウスの糖尿病性腎症を増悪させる」



井上かれん

(広島大学歯学部歯学科 5 年)
「*Porphyromonas gingivalis* 感染モデルマウスにおける抗 IL-6 受容体抗体の歯周炎に対する影響について」



歯周組織再生医学優秀発表賞 (KAKEN Award)

第 67 回秋季学術大会発表

植田優太

(新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食環境制御学講座歯周診断・再建学分野)
「Optical Coherence Tomography を用いた培養骨膜シートの厚みと骨形成能の関連性の検討」



JSP/JACP ポスター賞

昨年 11 月に開催されました第 110 回アメリカ歯周病学会共催日本歯周病学会・日本臨床歯周病学会 2024 年大会 (AAP-JSP/JACP サンディエゴ大会) の JSP/JACP ポスターセッションで発表いただいた演題のうち、各部門における受賞者をご紹介します。

General/Basic Research 部門

最優秀賞 (ストローマン・ジャパン賞)

パーン・ボンサティアン

(大阪大学大学院歯学研究所口腔治療学講座)
“Lysosome-mitochondria interaction regulates mineralization *in vivo*”



優秀賞（ヨシダ賞）

今井千尋

（東京科学大学医歯学総合研究科歯周病学分野）

“Effects of maternal ligature-induced periodontitis on brain in offsprings”



General/Clinical Research 部門

優秀賞（科研製薬賞）

内藤貴大

（東京科学大学医歯学総合研究科歯周病学分野）

“Periodontal Regenerative Therapy for Intrabony Defect and Gingival Recession in the Esthetic Zone”



Dental Hygiene 部門

最優秀賞（ストローマン・ジャパン賞）

清水雄太

（朝日大学歯学部口腔感染医療学講座歯周病学分野）

“Correlation between MMP/TIMP expression in gingival crevicular fluid and clinical parameters in the classification (2017) of periodontal disease”



最優秀賞（ストローマン・ジャパン賞）

川本亜紀

（日本大学歯学部附属歯科病院歯科衛生士室）

“Equol testing and supplementation for female patients with desquamative gingivitis”



優秀賞（オルコア賞）

出分菜々衣

（松本歯科大学歯科保存学講座（歯周））

“Relationships among cognitive function, periodontitis, oral microflora and oral frailty”



優秀賞（ライオン賞）

平間南美

（東京・医療法人社団康翔会 清水歯科クリニック）

“A case report of maintenance for a patient originally with a grade II furcation lesion”



Case Report 部門

最優秀賞（ストローマン・ジャパン賞）

奈良嘉峰

（神奈川・医療法人社団慶悠会茅ヶ崎駅前奈良デンタルクリニック）

“A Novel Regenerative Therapy for Periodontally Compromised Abutment Tooth”



奨学金助成終了報告

早期インプラント埋入と歯槽堤保存後の遅延インプラント埋入の比較：2施設共同ランダム化比較試験における頬側軟組織輪郭の変化，術者評価および患者報告アウトカムの分析

福岡駿介（東京科学大学 口腔再生再建学分野）

【背景】

インプラント治療において、抜歯後の対応として「早期埋入（Early Implant Placement：EP）」と「歯槽堤保存処置後の遅延埋入（Alveolar Ridge Preservation/Delayed Placement：ARP/DP）」の2つの方法が一般的である。これらは最終的な審美性や治療の予後に大きく影響を及ぼす可能性がある。本研究では、EPとARP/DPを比較し、頬側軟組織輪郭の変化量および術者および患者報告アウトカムを、インプラント上部構造装着までの期間にわたって評価することを目的とした。

【材料と方法】

本研究は、スイス・チューリッヒ大学およびベルギー・ゲント大学の2施設合同で実施したランダム化比較試験（RCT）である。対象は、上下顎前歯部から小臼歯部の単独欠損症例52名で、症例は以下の2群に無作為に割り付けられた。

- EP群：抜歯8週後にインプラント埋入。
- ARP/DP群：抜歯直後にBio-Oss CollagenとMucograft Sealによる顎堤保存術を行い、5カ月後にインプラント埋入。

すべての症例でStraumann BLXインプラントを使用し、サージカルガイド下にて手術を実施した。両群とも、必要に応じてインプラント埋入時の顎堤増大術およびアバットメント装着時の軟組織増大術が行われた。

- 主要評価項目：抜歯5カ月後の歯肉辺縁から3mm下方の軟組織輪郭の変化量
- 副次評価項目：
 - 術者の手技の難易度（Visual Analog Scale）
 - Pink/White Esthetic Score, Mucosal Scarring Index
 - 患者および術者の総合的な治療への満足度
 - OHIP-14

【結果・考察】

EP群（23名）とARP/DP群（25名）を比較すると、主要評価項目である頬側軟組織輪郭の変化量はEP群が -1.20 ± 0.79 mm、ARP/DP群が -1.64 ± 0.82 mmであり、有意差は認められなかった（ $p=0.061$ ）。しかし、GBRを追加施術した症例に限ると、ARP/DP群のほうが有意に骨縁の維持に優れていた（ $p=0.007$ ）。

術者の手技の難易度評価では、ARP/DP群が全手術手技のステップにおいて一貫して処置が容易であった。具体的にはフラップ翻転（EP：4.8 vs. ARP/DP：1.6）、インプラント埋入（EP：5.7 vs. ARP/DP：2.2）、創の閉鎖（EP：3.4 vs. ARP/DP：1.6）において有意に差が認められた。両群ともQOLは向上し、臨床パラメータ、審美的指標および総合的な患者満足度にも両群間の大きな差はなかったが、最終上部構造装着時の患者満足度はARP/DP群がわずかに高かった（ $p=0.02$ ）。

以上より、EPとARP/DPはいずれも同等の審美的・患者報告評価が得られる一方で、ARP/DPは手技が比較的簡便であることから、経験の浅い術者にとって適した選択肢となる可能性が示唆された。

第59回若手研究者の集い 開催報告

開催の概要

第68回春季日本歯周病学会学術大会において「若手研究者の集い」が、令和7（2025）年5月21日に沖縄県市町村自治会館で開催されました。今回は、九州

大学病院歯周病科講師の福田隆男先生を講師にお招きし、最先端の歯周炎治療研究についてご講演いただきました。

福田隆男先生のご経歴

福田先生は2000年に九州大学歯学部をご卒業後、2004年に同大学大学院歯学府を修了し、博士（歯学）を取得されました。その後、九州大学病院歯周病科で臨床と研究に従事され、2010年に日本歯周病学会専門医を取得。2016年から2017年に米国ペンシルバニア大学 Songtao Shi 教授のラボに客員研究員として留学され、2019年より現職に就かれています。

ご講演内容の要点

• 研究の背景と進展

大学院時代の RNA 会合タンパクの発現制御モデルから始まり、アメロジュニンと Grp78 の会合による骨芽細胞の増殖や歯根膜幹細胞の遊走促進メカニズムについて解説されました。

• エクソソーム研究の最前線

TNF α 刺激後に回収した歯肉幹細胞由来エクソソームが M2 マクロファージを有意に誘導する現象や、歯肉幹細胞の組織採取の容易さ・エクソソーム分泌量の多さを活かした新規歯周炎治療法の開発について、基礎と臨床をつなぐ視点からわかりやすくご説明いただきました。

• 受賞歴

これらの研究成果は「歯肉幹細胞由来エクソソームの M2 マクロファージ誘導を介した革新的歯周治療の開発（総説）」として、2021 年に日本歯周病学会学術賞を受賞されました。

国際経験とキャリア形成への示唆

福田先生は米国ペンシルバニア大学での留学経験についてもお話しくださり、留学のきっかけや研究テーマ、海外留学支援プログラムの申請時のポイント、



VISA 取得や住居確保など実践的な準備についても具体的にご紹介いただきました。これから海外で研究を志す若手研究者にとって非常に有益な内容でした。

総括と今後への期待

福田先生のご講演は、再生療法や細胞間コミュニケーションに関する先端研究への理解を深めるとともに、国際的な視野をもったキャリア形成を積むための貴重なアドバイスになりました。先生の今後のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。また、本集いへのご参加に感謝申し上げますとともに、コロナ禍以降参加者が減少傾向にあるなかで、若手研究者の交流と成長の場として本会が今後も継続・発展することを願っております。

奥羽大学歯学部歯科保存学講座歯周病学分野
高橋慶壮，山崎厚作

日本歯周病学会会誌のご案内

前回のニュースレター以降、日本歯周病学会会誌に掲載されました論文をご紹介します。日本歯周病学会会誌は2015年よりオンライン化され、J-STAGEで閲覧できます。また、発行に合わせてメールアラートを配信しておりますので、学会にメールアドレスを登録されていない会員各位におかれましては、本学会ホームページよりご登録をお願いします。

日本歯周病学会会誌

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/period-char/ja>



日本歯周病学会会誌 Vol. 67 (2025) No. 1

• ミニレビュー

「日本歯周病学会臨床データベースに基づいた歯周病診療支援開発への展望」

高柴正悟

「WHO AWaRe 分類による新しい抗菌薬適正使用の基準」

葛城啓彰

• 原著

「歯周炎患者に対する歯周組織再生療法と加速矯正治療の併用療法の有用性」

田中真喜, 巻島由香里, 高橋優子, 山崎幹子, 高橋慶壮

「インプラント周囲軟組織の形態的特徴とインプラント周囲炎の関連を調べる縦断的研究」

山崎厚作, 山崎幹子, 高橋慶壮

• 症例報告

「広汎型慢性歯周炎の16年経過症例」

春日早紀, 川原博雄

「口呼吸を伴う広汎型重度慢性歯周炎患者に行った包括的治療の14年経過：症例報告」

内田剛也, 小出勝義, 結城弓美子, 松下加奈枝, 村岡茉耶, 松島友二, 長野孝俊, 五味一博

日本歯周病学会会誌 Vol. 67 (2025) No. 2

• 総説

「糖尿病および慢性腎臓病と歯周病の関連におけるメカニズムの解析と歯周治療への応用」

水谷幸嗣

• ミニレビュー

「*Porphyromonas gingivalis* が放出する外膜小胞 (OMV) の歯周組織破壊と全身疾患に及ぼす影響」

稲垣裕司, 仲村大輔, 岩田泰億, 植村勇太, 湯本浩通

• 原著

「CPC のジンジパイン阻害作用と、その作用への唾液成分の及ぼす影響の研究」

森川拓磨, 有田卓矢, 浦川李花, 清水康光

• 症例報告

「歯周基本治療で改善がみられた侵襲性歯周炎患者の一症例」

岩坂美宥, 草場裕美, 金子高士

編集後記

ニュースレター 2025 年 2 号をお届けいたします。今年の夏は全国的に記録的な猛暑となり、北海道でも過去に例をみない暑さが続きました。本号がお手元に届く頃には、残暑も落ち着き、ようやく秋の気配を感じられることを願っております。

さて、本号の冒頭では、岩田隆紀副理事長のご挨拶にて「変化の時代における歯周病学のさらなる発展」について述べられています。社会構造や医療環境が大きく変化するなかで、学会が果たすべき使命を再確認する内容となっております。また、齋藤 滋先生および野口俊英先生の追悼文を掲載しております。長年にわたり学会の発展に尽力されたお二人のご功績を改めて胸に刻み、深い感謝と哀悼の意を表します。

さらに、日本歯科専門医機構報告として、「共通研修」の取り扱いなどに関する最新情報を掲載しています。本制度は複雑で流動的であり、今後も改定が予想されます。専門医資格に関わる会員の皆さまには、本ニュースレターや学会ホームページで最新情報をご確認いただくことをお勧めします。加えて、国民向け情報発信の取り組みとして、昨年公開された新ホームページ「ぺりおぶっく」や、啓発動画シリーズ「にゃんかむちゅ〜 Season 3」についてもご紹介しています。歯周病に関する正しい知識を広く社会に届けることは、私たちの重要な使命です。ぜひご活用ください。その他、各賞および奨学金助成の募集案内、国際学会や地域研修会の報告など、幅広い情報を掲載しています。本ニュースレターが、会員の皆さまの学術および臨床の充実を支える一助となれば幸いです。

最後に、10 月には新潟市で第 68 回秋季学術大会が開催されます。「国民のための歯周治療とその未来」をテーマに、国内外の第一線で活躍する講師による講演や、最新エビデンスを踏まえたシンポジウム、若手研究者による発表など、多彩なプログラムが用意されています。新潟は秋の訪れとともに、海の幸や山の幸が豊富で、過ごしやすい季節を迎えます。学術だけでなく、地域の魅力も感じながら、ぜひ現地にてご参加ください。多くの会員の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

(広報委員会副委員長 高橋直紀)